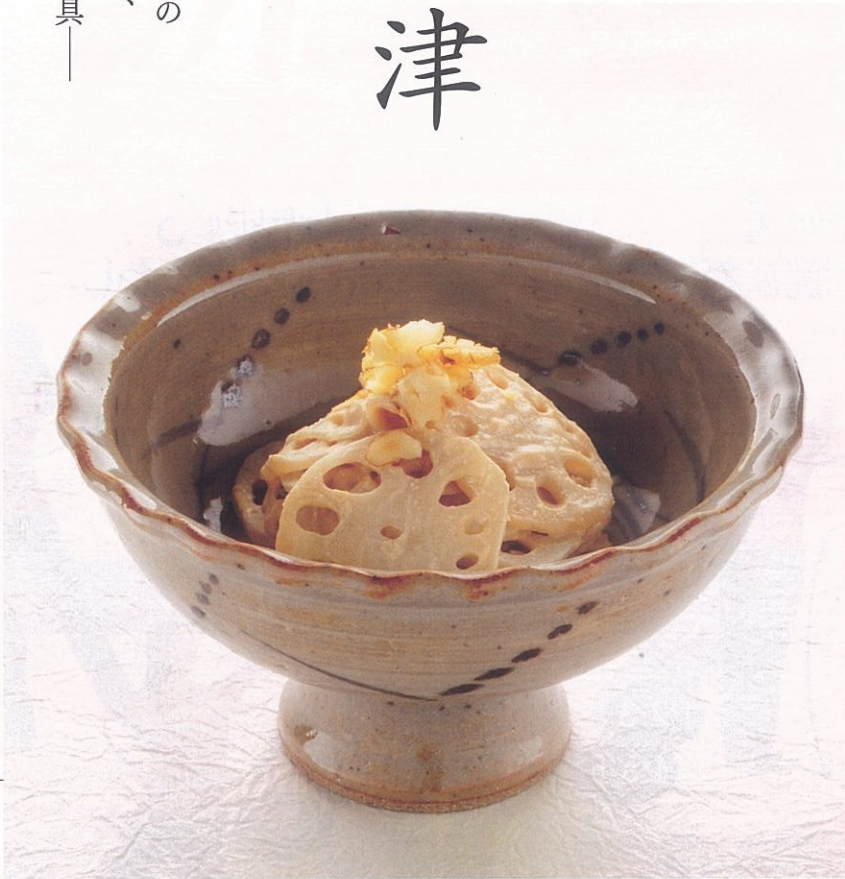


絵唐津

陶磁器や漆器などの器や調理器具など、食の周辺にある道具——食具はさまざま。

その国の食文化によっても特徴があります。

「食具の小さなミュージアム」からご紹介していきます。



肥前草花文高台小鉢。肥前黒牟田焼、丸田延親作。口径11.5cm、高さ6cm。馬上杯に似て高台が丈高で、手で持って食するのに適するだけでなく、平面に

なりやすい食卓に変化をつけることもできる。料理は「れんこんくるみみそ」。ゆでた薄切りのれんこんを香り高く濃厚な衣であえた季節のあえ物。

唐津焼は、豊臣秀吉による朝鮮出兵で連れ帰った陶工によって始められたと思われていますが、それ以前にも存在していたことは出土した木簡、陶片からも推測されています。唐津焼を代表する技法の一つが絵唐津。鉄絵具で絵付けをし、透明釉を施して焼成します。絵柄は簡潔でのびやか。心に映ったままを筆の走るまま、気のおもむくままに描いたものが多いようです。唐津（佐賀県）に旅したとき、風にかすかに揺れ動くすみの花のお皿に、思わずほほがゆるんだ思いがあります。

手前は千鳥松絵文向付、龜翁窯（佐賀県武雄市）、古賀未廣作。口径14・5cm、高さ4cm。

